

2022年度(2023年3月期) 第2四半期

Denka

Possibility
of
chemistry

決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2022年11月8日

1 前提 主要指標

2 2022年度（2023年3月期）第2四半期 決算概要

① 連結サマリー	（前年比・8月予想比）	04
② 増減要因	（前年比）	05
③ 営業利益 増減要因グラフ	（ " ）	06
④ セグメント別内訳	（ " ）	07
⑤ セグメント別増減要因	（ " ）	08-11

3 2022年度（2023年3月期）業績予想

① 連結サマリー	（8月予想比・前年比）	13
② セメント事業からの撤退およびカーバイドチェーン再構築		14
③ セグメント別内訳	（8月予想比）	16
④ セグメント別増減要因	（ " ）	17-20
⑤ 株主還元		21
（参考）上期 セグメント別内訳	（8月予想比）	22
（参考）通期 セグメント別内訳	（前年比）	23
（参考）四半期推移（セグメント別）		24

	2021年度 上期 実績	2022年度 上期 8月予想	2022年度 上期 実績	2021年度 通期 実績	2022年度 通期 8月予想	2022年度 通期 今回予想 (10月25日発表)
為 替 レ ー ト (円 / \$)	109.9	131.0	131.6	112.1	133.0	138.3 〔下期145.0〕
国 産 ナ フ サ (円 / Kリットル)	50,800	84,500	82,850	56,800	82,400	77,800 〔下期 72,800〕

※為替感応度 (USDル) : 1円円安になると、通期で営業利益が約2億円良化

(単位: 億円)

投 資	154	230	170	356	460	430
減 価 償 却 費	115	130	134	239	260	260
研 究 開 発 費	74	75	75	142	150	150
有利子負債残高	1,315	1,580	1,706	1,370	1,570	1,640

下期予想の前提は、為替が145円/\$
国産ナフサが72,800円/Kリットル

2022年度(2023年3月期) 第2四半期 決算概要

単位：億円	2021年度 上期 実績	2022年度 上期 実績	(前年比)	2022年度 上期 8月予想
売上高	1,911	2,029	+ 118	2,100
営業利益	252	183	△ 69	180
営業利益率	13.2%	9.0%	△ 4.2%	8.6%
経常利益	237	170	△ 66	170
純利益	180	143[※]	△ 37	130

※ 8月予想比増益は、政策保有株売却+15億円

前年比減益（8月予想並み）

前年比 (億円)

売上高

2,029億円

+ 118

1. 数量差：	(以下参照)	△	82
2. 売価差：	(以下参照)	+	200

営業利益

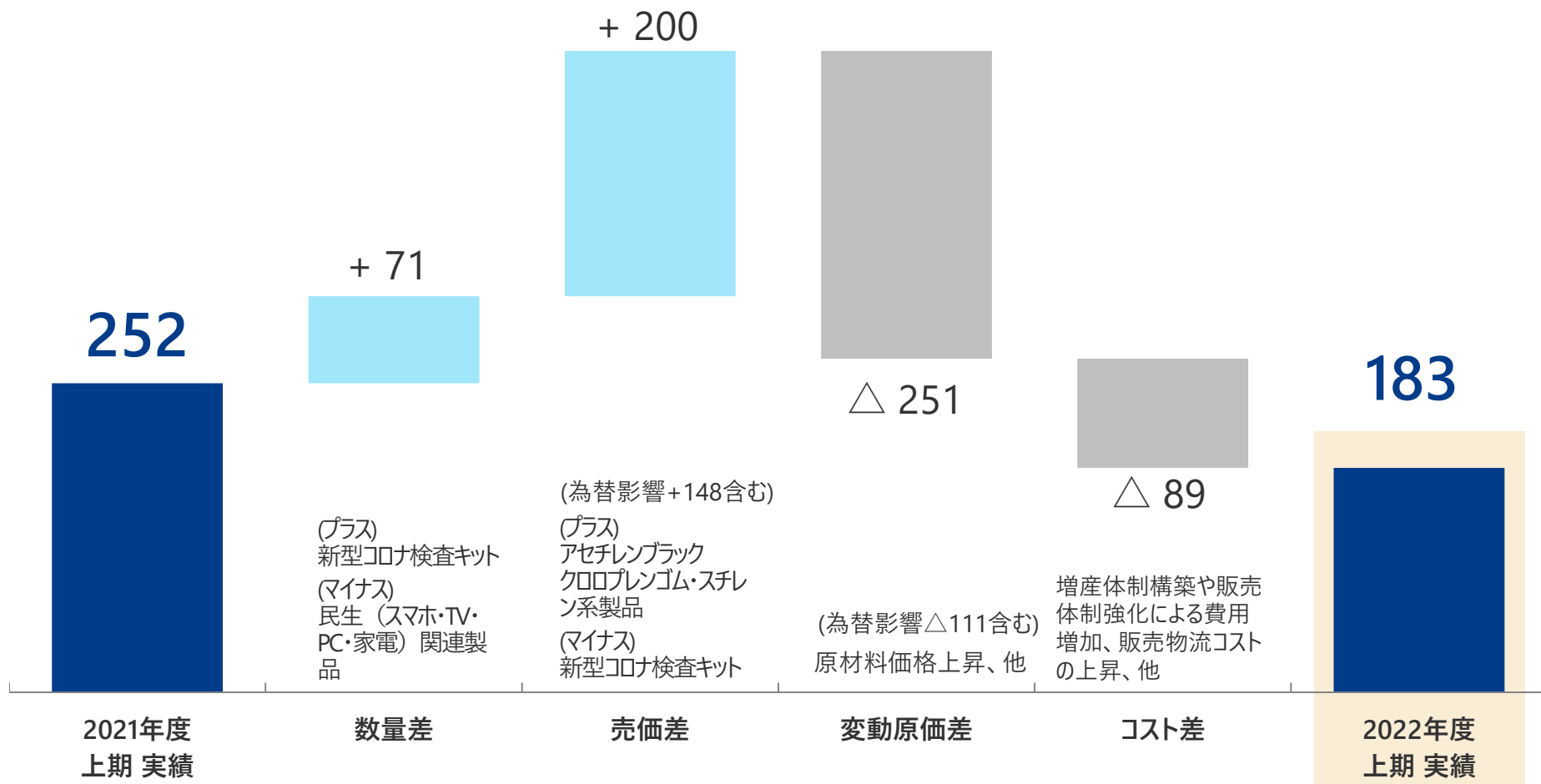
183億円

△ 69

1. 数量差：	(プラス) 新型コロナ検査キット：第7波流行により需要拡大 (マイナス) 半導体関連・機能樹脂：民生 (スマホ・TV・PC・家電) 向けは中国市場での景気減速	+	71
2. 売価差：	(為替影響 + 148含む) (プラス) アセチレンブラック：製品価値に見合った大幅な価格改定 クロロプレンゴム、スチレン系製品等：原燃料価格上昇に対応した価格改定 (マイナス) 新型コロナ検査キット：保険点数引き下げによる価格下落	+	200
3. 変動原価差：	(為替影響△111含む) 原燃料価格上昇、他	△	251
4. コスト差：	増産体制構築や販売体制強化による費用増加、 スチレンモノマープラントの定期修繕 (今回は2018年に実施) 販売物流コストの上昇、他	△	89

数量差プラスも、新型コロナ検査キットの売価下落やコスト増加などにより、減益

単位：億円



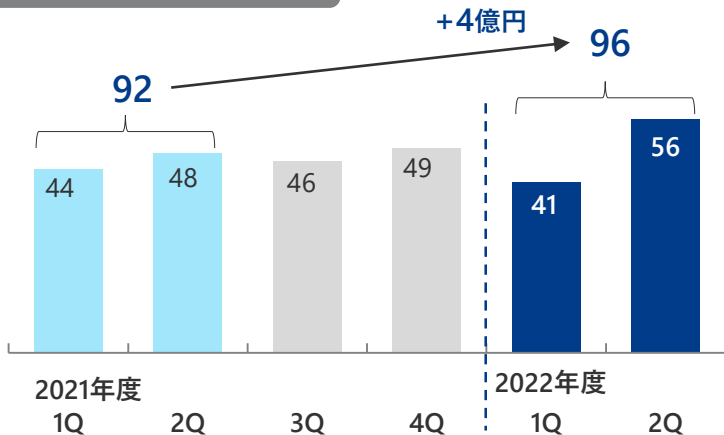
数量差プラスも、新型コロナ検査キットの売価下落やコスト増加などにより、減益

売上高 単位：億円	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	438	475	+ 37	△ 38	+ 74
ライフイノベーション	253	219	△ 34	+ 123	△ 157
エラストマー・インフラソリューション	514	629	+ 115	△ 21	+ 136
ポリマーソリューション	632	636	+ 4	△ 142	+ 146
その他 / 消去差	75	70	△ 4	△ 4	-
合計	1,911	2,029	+ 118	△ 82	+ 200

営業利益 単位：億円	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	92	96	+ 4	△ 15	+ 74	△ 55
ライフイノベーション	107	65	△ 42	+ 114	△ 157	+ 1
エラストマー・インフラソリューション	0	13	+ 13	△ 6	+ 136	△ 117
ポリマーソリューション	43	△2	△ 45	△ 23	+ 146	△ 168
その他 / 消去差	9	10	+ 1	+ 2	-	△ 1
合計	252	183	△ 69	+ 71	+ 200	△ 339

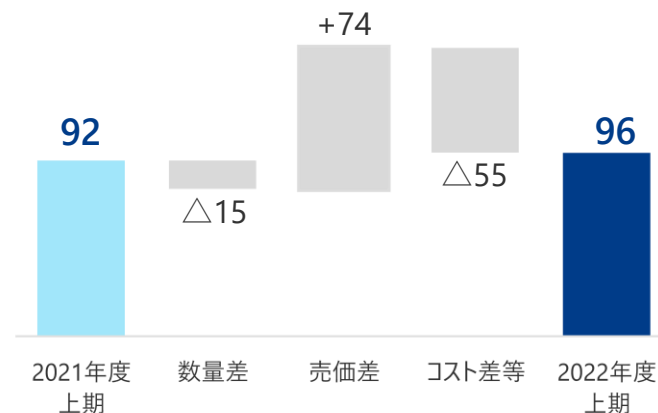
ライフイノベーションとポリマーソリューションが大幅減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

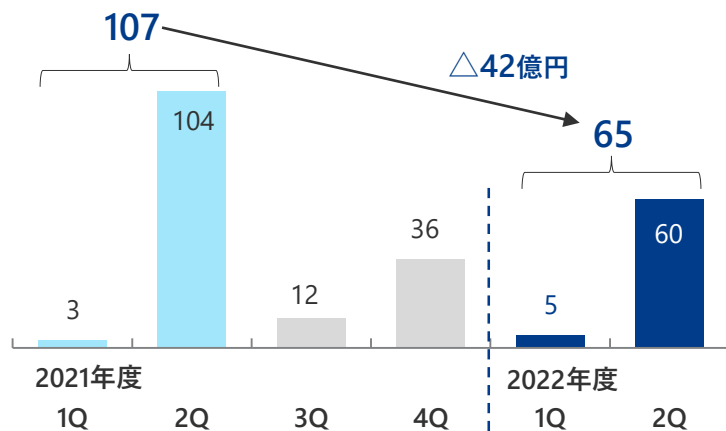


製品別販売動向・コスト

- 球状アルミナ
 - 4-6月低調のxEV向けは、7月以降、回復基調も、上期では出荷が前年を若干下回る
- 球状シリカ
 - 民生（スマホ・PC・家電）向け低調も、自動車向け回復などで補い、概ね前年並みの出荷
- 高機能フィルム
- アセチレンブラック
 - 高圧ケーブル向けは、前年に引き続き堅調
 - 4-6月低調のxEV向けは、7月以降、回復基調も、上期では出荷が前年を若干下回る
 - 製品価値に見合った価格改定により、販売価格が大幅に上昇
- セラミックス基板
(窒化珪素、窒化アルミ)
 - 電鉄向けは、前年に引き続き需要が低調
 - 4-6月に需要が低調に推移したxEV関連は、7月以降、回復基調となり、上期では前年並みの出荷
- コスト
 - 原燃料価格上昇（各製品価格対応）、増産体制構築や販売体制強化による費用増加

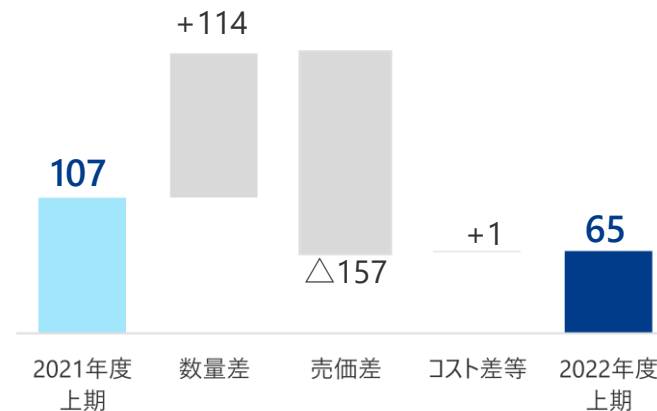
アセチレンブラック価格改定効果に加え、7月以降のxEV関連需要の回復基調により増益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

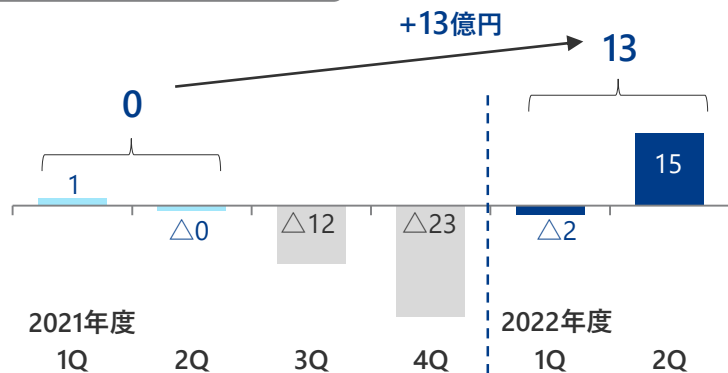


製品別販売動向・コスト

- インフルエンザワクチン
- 原液新棟にて1,000万本超の販売に向けて、計画通り9月より出荷を開始、出荷が前年を上回る
- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット
- スクリーニング検査向けなど需要の裾野拡大に加え、第7波流行により、出荷が前年を上回る
 - 販売価格は、2021年12月31日の保険点数引き下げにより大幅に下落
- その他検査試薬（炎症マーカー等）
- 検査需要拡大トレンドの一方、上海ロックダウンによる病院検査需要減少により、前年並みの出荷

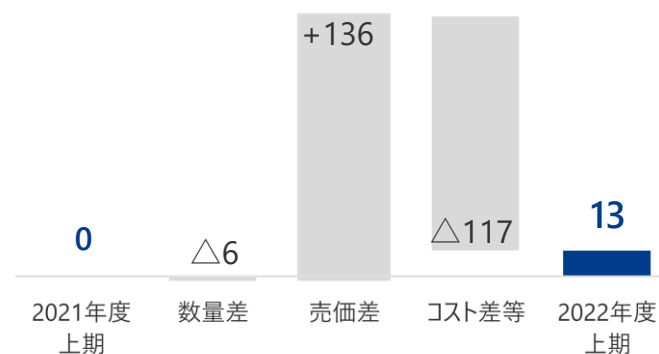
**新棟稼働効果によりインフルエンザワクチンが増益も、
新型コロナ検査キットの減益（売価下落影響>数量増影響）により、全体では減益**

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



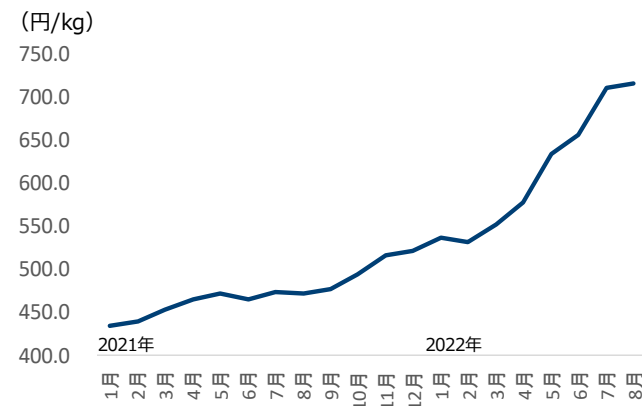
製品別販売動向・コスト

- クロロプレンゴム
- 需要が堅調に推移し、出荷が概ね前年並み
 - 原材料価格高騰に対応した値上げによりスプレッド改善 (9月からの追加値上げ (第4次) を発表済み)

- 特殊混和材
- 概ね前年並み

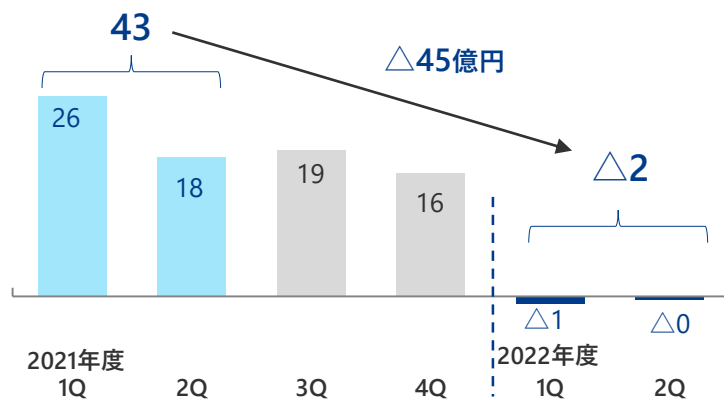
- セメント
- 進捗が遅れていた2,300円/tの値上げは一部を除き概ね完了 (9月末時点)
 - 10月からの3,000円/tの追加値上げは順次交渉中
 - 石炭価格が急騰 (2021年度上期：\$ 138/t ⇒ 2022年度上期：\$ 399/t)

【通関統計】クロロプレンゴム (ドライ+ラテックス) 輸出単価



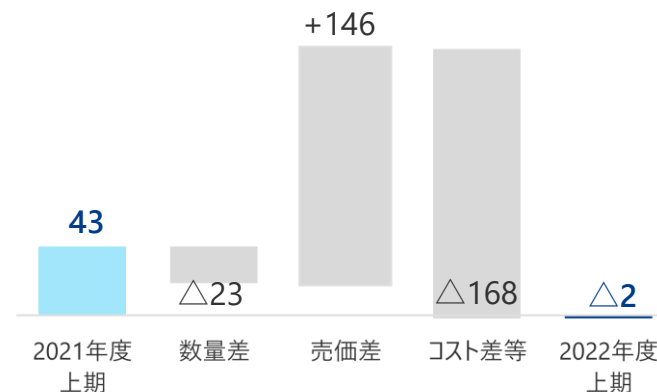
石炭価格急騰によるセメントの大幅なコストアップも、
クロロプレンゴムの値上げ効果により増益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
 - 中国市場の景気減速も、競合素材からの代替需要を取り込み、出荷数量は前年並みとなるが、償却費などコストが増加
- AS・ABS・透明樹脂など
 - 自動車減産の影響や、中国市場の景気減速(家電向けなど)により、出荷が前年を下回る
- 食包シート・容器
 - 概ね前年並み
- Toyokalon
 - アフリカ・米国市場ともにインフレによる購買力低下が続き、出荷が前年を下回る
- コスト
 - 原材料価格上昇（価格改定によりスプレッドを維持）
 - スチレンモノマープラントでの定期修繕（前は2018年に実施）、販売物流コストの上昇

原材料価格上昇に対応した価格改定により、スプレッドを維持するも、景気悪化による需要減少、定期修繕・物流コスト増加により、大幅減益

2022年度(2023年3月期)
業績予想

単位：億円	2022年度 8月予想	2022年度 今回予想 (10月25日発表)	(8月予想比)	2021年度 実績	(前年比)
売上高	4,550	4,450	△ 100	3,848	+ 602
営業利益	430	430	± 0	401	+ 29
営業利益率	9.5%	9.7%	± 0.2%	10.4%	△0.7%
経常利益	410	390	△ 20	365	+ 25
純利益	290	185[※]	△ 105	260	△ 75

※ セメント事業撤退における特別損失計上△190億円 (次頁参照)

**営業利益は8月予想から据置き、
純利益はセメント事業からの撤退・カーバイドチェーン再構築による特別損失を計上**

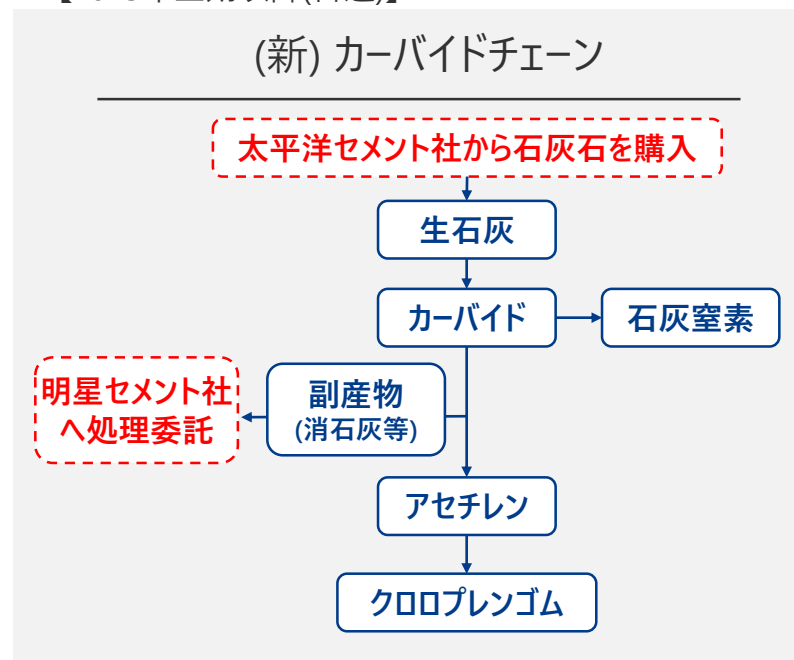
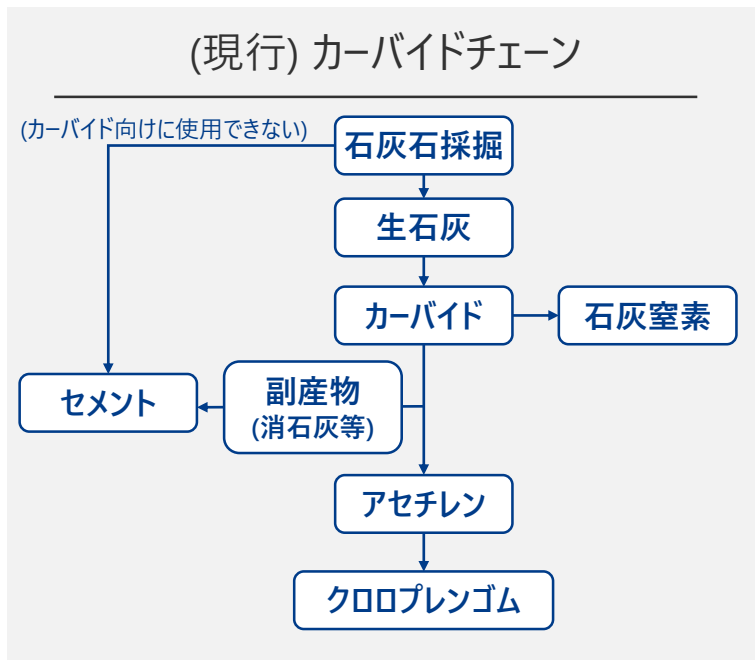
石灰石の自社採掘及びセメント製造事業からの完全撤退を決議（2022年10月25日発表）

スケジュール（目途）

- 2023年3月31日：セメント販売事業を新会社に承継し、太平洋セメント社へ譲渡
- 2023年4月以降：製造：デンカ、販売：新会社 ⇒「太平洋セメント」のブランド名で販売
- 2025年上期：セメント生産・石灰石採掘を停止 ⇒石灰石購入、副産物処理委託

※ 新会社：当社が新たに設立する子会社

【2025年上期以降(目途)】



※ 明星セメント社：太平洋セメント社の100%子会社

固定資産の減損など約190億円の特別損失を計上

ポートフォリオ変革の効果（完全撤退後）

収益面（2018～2022年度平均比）

（プラス要因）

セメント事業の固定費減（減価償却費、修繕費、ほか）
 自社鉱山の固定費減（減価償却費、修繕費、ほか）
 電力購入量の減少

（マイナス要因）

限界利益の減少
 カーバイド用の石灰石調達費用
 副産物処理委託費用

過去5年平均比**10億円程度**の利益良化

収益性の向上
 資産効率性の向上

環境面

セメント事業からの撤退により
 CO₂排出量を**約90万トン/年**削減

温室効果ガス排出量（Scope1+2）

（万t-CO₂/年）



2030年削減目標を60%へ(2013年比)
 2050年カーボンニュートラル実現へ

ポートフォリオ変革により、収益面・環境面での効果を実現
 企業価値向上に向けて、経営資源を成長分野へ集中

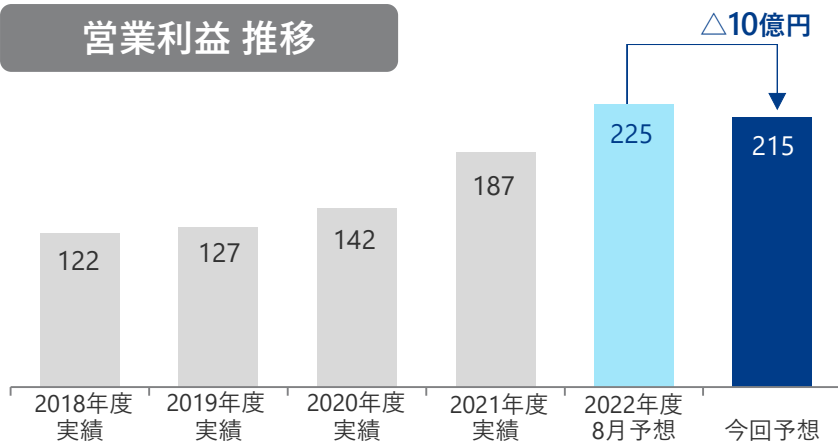
売上高 単位：億円	2022年度 8月予想	2022年度 今回予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	1,050	1,050	± 0	△ 21	+ 21
ライフイノベーション	450	500	+ 50	+ 47	+ 3
エラストマー・インフラソリューション	1,400	1,400	± 0	△ 28	+ 28
ポリマーソリューション	1,500	1,350	△ 150	△ 80	△ 70
その他 / 消去差	150	150	± 0	-	-
合計	4,550	4,450	△ 100	△ 82	△ 18

営業利益 単位：億円	2022年度 8月予想	2022年度 今回予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	225	215	△ 10	△ 27	+ 21	△ 4
ライフイノベーション	110	130	+ 20	+ 15	+ 3	+ 2
エラストマー・インフラソリューション	25	35	+ 10	△ 3	+ 28	△ 15
ポリマーソリューション	45	25	△ 20	△ 16	△ 70	+ 66
その他 / 消去差	25	25	± 0	+ 3	-	△ 3
合計	430	430	± 0	△ 28	△ 18	+ 45

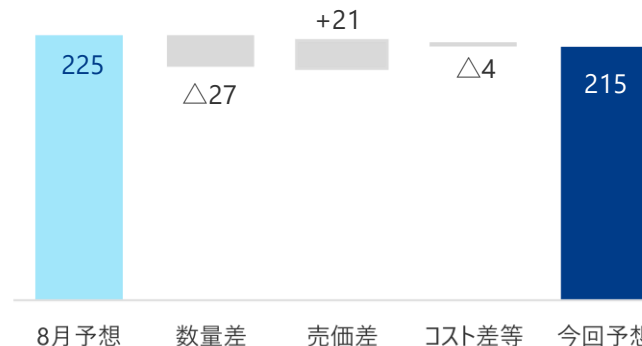
セグメントごとに上振れ・下振れがあるも、全体で8月予想を据え置く

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(8月予想比)



市場見通しと販売動向

(市場)	8月予想時点	今回予想
半導体	民生向け需要減少も、不足していた自動車向け増加により強い需要継続	民生需要が悪化、自動車向けで補えず
xEV	7月以降、徐々に回復傾向	(変更なし)
再生可能エネルギー (高压ケーブル)	堅調な需要が継続	(変更なし)

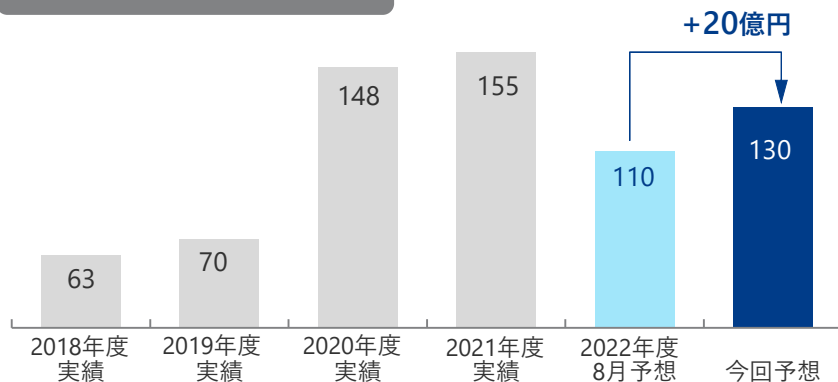
販売動向

球状シリカ 高機能フィルム	} : 半導体需要が想定を下回り、下振れの見通し
球状アルミナ	
セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)	: 8月予想並み
アセチレンブラック	: 8月予想並み (タイに新製造拠点としてJV設立を決定)

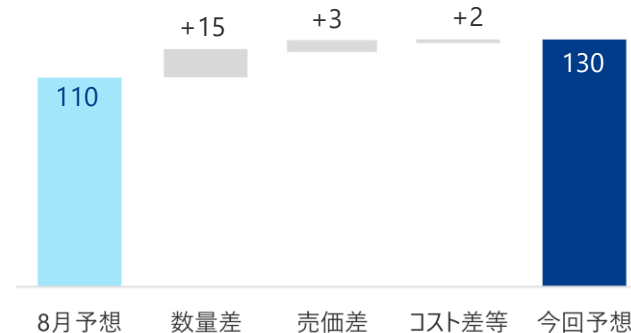
民生 (スマホ・PC・家電) 向け需要減少により、8月予想を下回る見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(8月予想比)



市場見通しと販売動向

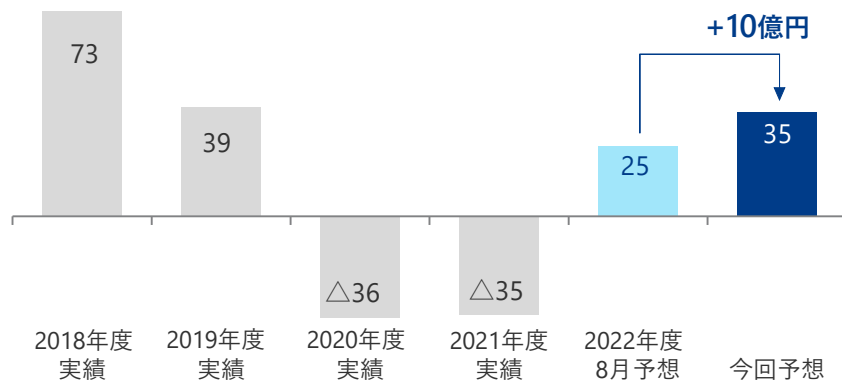
(市場)	8月予想時点	今回予想
インフルエンザ	一定程度の流行を想定	(変更なし)
新型コロナウイルス	第7波流行 (7月まで)	第7波流行 (8月まで) 第8波の流行を想定
その他 検査試薬 (炎症マーカー等)	需要拡大トレンドの一方、 中国ロックダウンによる病 院検査需要の減少	(変更なし)

販売動向

インフルエンザ ワクチン	生産性改善により、 1,000万本製造予定をやや上回る見通し 流行しなかった過去2年のコロナ禍においても 需要は落ちず、流行に左右されない
新型コロナ抗原 迅速診断キット	第7波による需要増に加え、第8波の流行を 想定、出荷増を見込む (コロナ・インフルの同時検査キット含む)
その他 検査試薬 (炎症マーカー等)	8月予想並み

**第7波による需要増に加え、第8波の流行を想定、
8月予想を上回る見通し**

営業利益 推移



営業利益 差異分析(8月予想比)



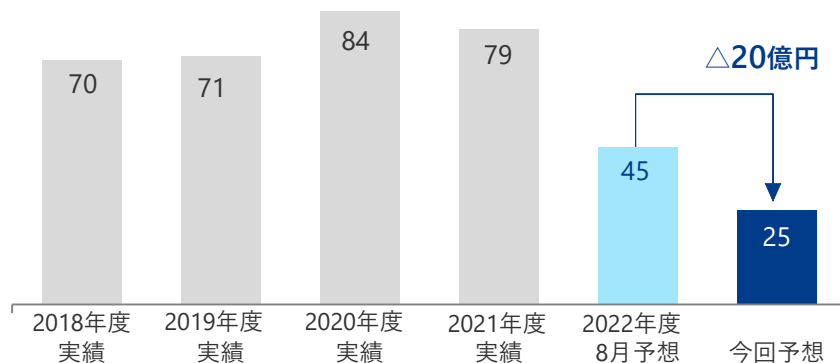
市場見通しと販売動向

(市場)	8月予想時点	今回予想	販売動向
クロロプレンゴム	2019年度並みの需要	原材料は8月予想よりも下落 (コークスなど) 需要想定は変更なし	販売数量・値上げ進捗は8月予想並み 円安によるプラス影響あり
特殊混和材	民間工事などの回復が遅れるも、 下期回復を想定	需要回復が遅れる	出荷は下振れの見通し
セメント	一般炭：392ドル/t想定	一般炭：405ドル/t想定	3,000円/tの追加値上げを推進

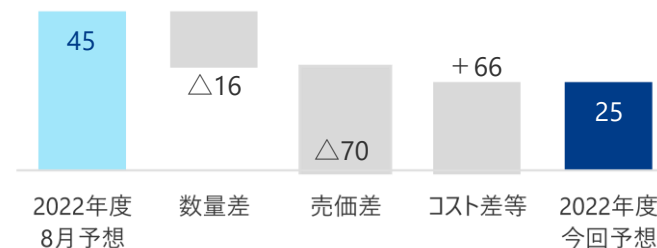
クロロプレンゴムの原材料価格下落、円安効果により、
8月予想を上回る見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(8月予想比)



市場見通しと販売動向

(市場)	8月予想時点	今回予想
民生 (TV・PC・家電 ほか)	景気減速により需要減、 下期回復を想定	需要回復は想定より遅れ、 11月以降となる
化粧品容器、 雑貨など	中国市場の景気減速 7-9月回復を想定	下期回復を想定
食品容器	スーパー、コンビニ向け需要 減も、テイクアウト需要増 7-9月回復を想定	需要回復が遅れる
Toyokalon	アフリカ・米国市場ともにイ ンフレによる購買力低下	需要減が長期化

	販売動向
MS樹脂	: TV・モニターの導光板用途の需要が 想定を下回る見通し (MS樹脂の製造販売会社は12月決算)
AS・ABS・ 透明樹脂など	: 民生や化粧品容器、雑貨などの需要が 想定を下回る
食包シート・容器	: 8月予想を下回る
Toyokalon	: 8月予想を下回る

需要回復が想定より遅れ、8月予想を下回る見通し

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (10月25日発表)
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	185
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	145.0 <small>(中間70.0 期末75.0)</small>
配当額	(億円)	105	108	108	125	125
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	125
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	260
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	430
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	(6.2%)
自己資本比率		51.0%	50.0%	50.8%	51.7%	(50.6%)
ネットDELシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	(0.47倍)

**企業価値向上に向けた一時的な損失により、
総還元性向50%基準の方針を上回るが、安定配当の観点から145円/株を維持**

売上高 単位：億円	2022年度 上期 8月予想	2022年度 上期 実績	増減		数量差		売価差	
電子・先端プロダクツ	500	475	△	25	△	27	+	2
ライフイノベーション	200	219	+	19	+	15	+	4
エラストマー・インフラソリューション	650	629	△	21	△	24	+	3
ポリマーソリューション	675	636	△	39	△	23	△	16
その他 / 消去差	75	70	△	5	△	5		-
合 計	2,100	2,029	△	71	△	63	△	8

営業利益 単位：億円	2022年度 上期 8月予想	2022年度 上期 実績	増減		数量差		売価差		コスト差等	
電子・先端プロダクツ	100	96	△	4	△	9	+	2	+	3
ライフイノベーション	50	65	+	15	+	6	+	4	+	6
エラストマー・インフラソリューション	15	13	△	2	△	3	+	3	△	2
ポリマーソリューション	5	△2	△	7	△	6	△	16	+	15
その他 / 消去差	10	10	+	0	+	4		-	△	4
合 計	180	183	+	3	△	7	△	8	+	18

売上高 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 今回予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	902	1,050	+ 148	△ 43	+ 191
ライフイノベーション	461	500	+ 39	+ 207	△ 168
エラストマー・インフラソリューション	1,069	1,400	+ 331	△ 9	+ 340
ポリマーソリューション	1,266	1,350	+ 84	△ 197	+ 282
その他 / 消去差	151	150	△ 1	△ 1	-
合計	3,848	4,450	+ 602	△ 43	+ 645

営業利益 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 今回予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	187	215	+ 28	△ 17	+ 191	△ 146
ライフイノベーション	155	130	△ 25	+ 154	△ 168	△ 11
エラストマー・インフラソリューション	△35	35	+ 70	△ 11	+ 340	△ 260
ポリマーソリューション	79	25	△ 54	△ 30	+ 282	△ 305
その他 / 消去差	15	25	+ 10	+ 11	-	△ 2
合計	401	430	+ 29	+ 107	+ 645	△ 723

売上高 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	171	196	200	211	210	228	223	240	219	256	575
ライフイノベーション	53	109	205	63	60	193	109	99	64	155	281
エラストマー・インフラソリューション	198	220	248	252	246	268	261	293	304	325	771
ポリマーソリューション	253	251	283	313	318	315	295	339	316	320	714
その他 / 消去差	87	65	82	85	35	40	40	37	41	29	80
合計	762	841	1,017	924	867	1,044	928	1,009	944	1,086	2,421

営業利益 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	28	38	36	40	44	48	46	49	41	56	119
ライフイノベーション	0	24	114	10	3	104	12	36	5	60	65
エラストマー・インフラソリューション	3	△4	△19	△15	1	△0	△12	△23	△2	15	22
ポリマーソリューション	13	16	25	30	26	18	19	16	△1	△0	27
その他 / 消去差	0	3	3	2	4	5	4	2	6	4	15
合計	44	77	160	67	77	175	70	79	49	134	247

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Possibility of chemistry

Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>